

M E S S A G E S



麗澤大学は、学生諸君を
「品格あるグローバル・リーダー」に育てあげます。
そのためには、読書は不可欠です。
学生時代に読んでおいて欲しい100冊を選
びました。
読書は、知識を深め、思考力を向上してくれま
す。さらにあなたの人生を豊かにしてくれます。

学長 徳永澄憲



温故知新。ここに選ばれた100冊、中には古典も
あります。
古典は、思考の訓練になるだけでなく、新しいアイ
デアへの着想を得る宝庫でもあります。折に触れ古
典に親しみましょう。

副学長 堀内一史



こんな詩に出会いました。

良い本を読み／良い本によって己を作れ／心に美しい火を燃やし／人生は尊かったと／叫ばしめよ

(仏教詩人 坂村真民)

読書続けししっかりとした自分を作って行って下さいね。

副学長 兼 図書館長 渡邊信



読書とは、作者の考えを鵜呑みにして従うことではありません。作者と戦い、作者を越えていく知的冒険、それが読書です。2021年、麗澤大学の新たな仲間に加わる“知の冒険者”達に、とっておきの100冊を紹介します。

国際学部長 野林靖彦



大学生活のなかで、自分を変える一冊を見つけることくらいリッチで幸せな体験はありません（私もそうでした！）。インターネットにより生活が激変した今を生きる私たちにこそ、読書は豊かな時間を与えてくれるのではないのでしょうか？運命の本が、皆さんが手に取ってくれるのを待っています！

外国語学部長 千葉庄寿



読書は著者との対話でもあります。歴史上の人物や世界の人々と読書を通して対話ができるのです。

この100冊の中にはきっとあなたと話の合う本がありますから、いろいろな本を手にとって対話を試みてください。

経済学部長 上村昌司

選書した先生からの おすすめコメント本の紹介



日本を貶めるフェイクニュースを論破する! 8



国際学部・モーガン先生推薦

JAPAN Forward編集部

靖国問題、日韓関係、捕鯨、女性差別などの論点で、日本を貶めてきた欧米リベラル系メディアのひどい「物言い」「フェイクニュース」を紹介する。

英語圏における日本に関する報道がどれほど間違っていて、日本について知識がどれだけ乏しいか教えてくれる一冊です。学生の思想力とニュース分析力にきつとつながる書籍なのでオススメです。

なぜウソをついちゃいけないの? 20

：ゴットフリートおじさんの倫理教室



外国語学部長・千葉先生推薦

ライナー エアリンガー

プレゼントが気に入らなくても、「気に入った」って言わなきゃいけない? どうするのが正しいことなのかわからないこと、その考え方の道筋がわかります。

タイトルにある疑問をはじめ、答えをみつけにくい日常の小さな問題意識について、諦めずに「自分で考える」ための大切な筋道を、先人の知恵と思索を交えながらゴットフリートおじさんが丁寧にひも解いてくれます。

スツキリ中国論 : スジの日本、量の中国 39



国際学部・陳先生推薦

田中信彦

平気で列に割り込む、自慢話ばかりする、賄賂を要求された—中国人が日本人を「イラッ」とさせる理由がわかる。

上海在住の著者が自らの観察に基づいて書いたものです。具体的な事例を通じて、中国人の物事に対する見方から、中国社会の行動原理を論理的にまとめている。その内容は、文化・習慣だけでなく、経済・経営にも及んでいます。もちろん、著者の見方には賛成できないものも少なくありませんが、同書は少なくとも中国社会を思考する好材料になるでしょう。

「甘え」の構造 増補普及版 15



外国語学部・山川先生推薦

土居健郎

親しい二者関係を基盤とする「甘え」の心性が失われ、無責任な「甘やかし」と「甘ったれ」が蔓延している。

いまさら解説する必要はないでしょうが、文化研究の基礎という視点で古典的な書物。今まで取り上げられなかったのが不思議なくらいです。

若き数学者のアメリカ 38



外国語学部長・千葉先生推薦

藤原正彦

1972年ミシガン大学に研究員として招かれる。セミナーの発表は成功を収めるが、冬をむかえた厚い雲の下で孤独感に苛まれる。青年数学者の躍動する留学体験記。

自分のすべてをアメリカにぶつけた青年数学者の躍動する留学体験記。古い話じゃないかと言わず、留学を考える全ての人に、ぜひ一度手に取ってもらいたい。無二の感動に溢れています!

Facing the Rising Sun: African Americans, Japan, and the Rise of Afro-Asian Solidarity 42



国際学部・モーガン先生推薦

Gerald Horne

1942年11月、イリノイ州イーストセントルイスで軍事訓練に参加していたアフリカ系アメリカ人のグループは、日本のアメリカ侵攻を心待ちにしていた。

戦前日本がリードをとって、世界中で人種差別に戦ったという、忘れられた歴史を再度紹介する一冊です。ぜひ、学生に読んでもらいたいです。非常に大切な歴史の一部で、今日のニュースなどにも共鳴する課題だと思えます。

なぜ日本の大学生は、世界で一番勉強しないのか？

62



外国語学部長・千葉先生推薦
辻太一朗

「もっと頑張れ!」とか、「若いうちは勉強しなきゃダメだ!」といった精神論では、問題は解決しない。大学生が勉強する「システム」を作る。現実的な解決策を紹介。

現代の日本にはびこる、「勉強しない」大学生を産む負のスパイラル。大学は何をすればいい? 大学で何をすべきか? この本を手に取りもう一度、考えてみましょう。

遠野物語・山の人生

64



国際学部長・野林先生推薦
柳田国男

陸 中遠野郷に伝わる口碑を簡古かつ気品ある文章で書きとめた遠野物語、併収の山の人生。柳田学の展開を画する記念碑的労作。

遠野物語もいいですが、山の人生が断然面白い。2つセットになっているのでとてもオススメです。

「成田」とは何か： 戦後日本の悲劇

74



外国語学部・山川先生推薦
宇沢弘文

学 識経験者として、国と反対派との公開シンポジウムに参加した著者が、自らの苦悩の体験を通して成田問題の本質に肉迫する。

成田空港がある千葉県にある大学で、観光を学ぶ学生なら知っておかなければならない成田空港の歴史を論じた書物。

思考と行動における言語

77



副学長・野林先生推薦
岩波書店

言 語の機能およびコミュニケーションを通じての人々の相互作用を、身近な具体例に基づいて明晰かつ説得的な論理で究明する。

ただ単に、私が学生の時から面白いと思った本。ラディカルな指摘が面白い。言語学の古典的名著。

多言語主義社会に向けて

78



外国語学部・山川先生推薦
平高史也、木村護郎クリストフ

国 内外の多言語状況を肯定し、尊重する社会をめざして。「多言語」を考える教科書にも最適。

グローバルという表現が日常化する中で言語の問題をどう考えていくべきなのか、日本、ヨーロッパの事例を取り上げた教科書的な入門書。

気候の変化が言葉をかえた

79



外国語学部・山川先生推薦
鈴木秀夫

地 理学の碩学が言語年代学の成果をふまえながら、気候と言語のダイナミックな関連性を一万年の人類史の中で実証するという野心的試み。

地球規模で雄大に言語現象を論じた著作。自然地理学者ならではの風土論を言語と関係して展開している。

レトリック感覚：ことばは新しい視点をひらく **83**



外国語学部長・千葉先生推薦
佐藤信夫

あなたの言語感覚を活性化させると同時に、ことばを楽しく、おもしろく使いながら、新しい認識の世界に踏みこませてくれる好著。

あなたが使う、何気ない言葉に隠された、レトリックのもつ絶妙な効果。レトリックの存在を知ること、あなたの言語感覚は活性化し、ことばを楽しく、おもしろく使うことに目覚めることでしょう。続刊あり。

フィンランド語は猫の言葉 **87**



外国語学部長・千葉先生推薦
稲垣美晴

芸大生ミハルが「渡芬」したのはフィン語の辞書もない70年代末。個性溢れる仲間と共に極寒の冬も混浴サウナもどうにか乗り切った、抱腹絶倒の留学体験エッセイ!

留学体験記として(個人的に)ナンバーワンです。70年代、森と湖の美しき国フィンランドに単身留学した芸大生ミハル。辞書もないフィンランド語に奮闘し、個性溢れる仲間と極寒の冬も混浴サウナもどうにか乗り切った、抱腹絶倒の体験記!

嘘つきアーニヤの真っ赤な真実 **92**



外国語学部長・千葉先生推薦
米原真理

1960年ブラハ。マリはソビエト学校で毎日を過ごしていた。30年後、音信の途絶えた3人の親友を捜し当てたマリは、少女時代には知り得なかった真実に出会う!

1960年、激動の東欧ブラハで刺激的な毎日を過ごすマリ。30年後、音信の途絶えた3人の親友を捜し当てたマリが出会う驚愕の真実。作家の自伝的ノンフィクション、留学を考える人には是非読んでほしい!

幸福の「資本」論：—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」 **23**



経済学部・宗先生推薦
橋玲

ひとは幸福になるために生きているけれど、幸福になるようにデザインされているわけではない。8つの人生パターンから「幸福」のカチを選択するヒント。

理科系の作文技術 **67**



経済学部・宗先生推薦
木下是雄

いかに簡潔な表現で筋の通った主張をし、読む人を納得させることができるか。理科系ならずとも、論理的に思考し文章化することは、常に求められる能力である。

キャリア・アンカー **59**

：—自分のほんとうの価値を発見しよう



経済学部・宗先生推薦
エドガー・H. シャイン

キャリア・アンカーとは、どうしても犠牲にたくない動機や価値観のこと。自分のキャリア・アンカーを見つけ出し、キャリア選択や決定に役立てるためのツールをまとめる。

社会人として人生を送っていくために必要な心構えを教えてくれる。そして文章を正しく書くという基本的なことに対して理科系の作文技術は古典。

FACTFULNESS : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

2



経済学部長・上村先生推薦

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド

ファクトフルネスとは一データや事実にもとづき、世界を読み解く習慣。10の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につく。

事実に基づいた経営

：一なぜ「当たり前」ができないのか？

54



経済学部・宗先生推薦

ジェフリー・フェアー、ロバート・I. サットン

ワークライフバランス、戦略主義、組織変革…もうビジネス書やコンサルタントによる「成功の秘訣」に惑わされるな！100年に1度の危機に立ち戻るべき経営の基本。

環境危機をあおってはいけない

：地球環境のホントの実態

72



経済学部・宗先生推薦

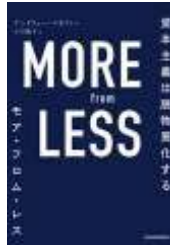
ビョルン・ロンボルグ

地球はほんとうに温暖化しているのか。エネルギー資源はほんとうに枯渇するのか。「地球が危ない」という定説に根拠はあるのか。絶望の未来図はまちがいだらけ。

MORE from LESS (モア・フロム・レス)

：資本主義は脱物質化する

73



経済学部・宗先生推薦

アンドリュー・マカフィー

テクノロジーが資源を使わない方向に進歩した。人類はデジタル技術を開発し、消費の脱物質化を実現させた。なぜそれが可能になったのか、又その可能性を探る。

物事を科学的に見ることがいかに大切で、しかしできていないかがよく分かる。研究者としても実務家としても早いうちに読んでおくことが良いと思います。

「読まなくてもいい本」の読書案内

：知の最前線を5日間で探検する

6



経済学部・宗先生推薦

橋玲

本本の数が多すぎる！だから読まなくてもいい本を案内しよう。複雑系、進化論、ゲーム理論、脳科学、功利主義の5つの分野で知の最前線を学ぶことができる。

驕れる白人と闘うための日本近代史

33



経済学部・宗先生推薦

松原久子

「我々の歴史こそ世界史であり、あらゆる民族は我々の文明の恩恵によって後進性から救われてきた」そんな欧米人の歴史観・世界観に対し、真っ向から闘いを挑む。

教養として読むべき本は沢山あるが、前者は過去の知識体系を概観するための、後者は日本人が世界で生きていくための良書。

選書した先生からの おすすめコメント



英語圏における日本に関する報道がどれほど間違っていて、日本について知識がどれだけ乏しいか教えてくれる一冊です。学生の思想力とニュース分析力にきつとつながる書籍なのでオススメです。

8: 日本を貶めるフェイクニュースを論破する!

いまさら解説する必要はないでしょうが、文化研究の基礎という視点で古典的な書物。今まで取り上げられなかったのが不思議なくらいです。

15: 「甘え」の構造 増補普及版

タイトルにある疑問をはじめ、答えをみつけにくい日常の小さな問題意識について、諦めずに「自分で考える」ための大切な筋道を、先人の知恵と思索を交えながらゴットフリートおじさんが丁寧にもひも解いてくれます。

20: なぜウソをついちゃいけないの?—ゴットフリートおじさんの倫理教室

自分のすべてをアメリカにぶつけた青年数学者の躍動する留学体験記。古い話じゃないかと言わず、留学を考える全ての人に、ぜひ一度手に取ってもらいたい。無二の感動に溢れています!

38: 若き数学者のアメリカ

上海在住の著者が自らの観察に基づいて書いたものです。具体的な事例を通じて、中国人の物事に対する見方から、中国社会の行動原理を論理的にまとめている。その内容は、文化・習慣だけでなく、経済・経営にも及んでいます。もちろん、著者の見方には賛成できないものも少なくありませんが、同書は少なくとも中国社会を思考する好材料になるでしょう。

39: スッキリ中国論: スジの日本、量の中国

戦前日本がリードをとって、世界中で人種差別に戦ったという、忘れられた歴史を再度紹介する一冊です。ぜひ、学生に読んでもらいたいです。非常に大切な歴史の一部で、今日のニュースなどにも共鳴する課題だと思います。

42: Facing the Rising Sun

: African Americans, Japan, and the Rise of Afro-Asian Solidarity

現代の日本にはびこる、「勉強しない」大学生を産む負のスパイラル。大学は何をやる場所? 大学で何をすべきか? この本を手に取りもう一度、考えてみましょう。

62: なぜ日本の大学生は、世界で一番勉強しないのか?

遠野物語もいいですが、山の人生が断然面白い。2つセットになっているのでとてもオススメです。

64: 遠野物語・山の人生

成田空港がある千葉県にある大学で、観光を学ぶ学生なら知っておかなければならない成田空港の歴史を論じた書物。

74: 「成田」とは何か: 戦後日本の悲劇

ただ単に、私が学生の時から面白いと思った本。ラディカルな指摘が面白い。言語学の古典的名著。

77: 思考と行動における言語

グローバルという表現が日常化する中で言語の問題をどう考えていくべきなのか、日本、ヨーロッパの事例を取り上げた教科書的な入門書。

78: 多言語主義社会に向けて

地球規模で雄大に言語現象を論じた著作。自然地理学者ならではの風土論を言語と関係して展開している。

79: 気候の変化が言葉をかえた: 言語年代学によるアプローチ

あなたが使う、何気ない言葉に隠された、レトリックのもつ絶妙な効果。レトリックの存在を知ること、あなたの言語感覚は活性化し、ことばを楽しく、おもしろく使うことに目覚めることでしょう。続刊あり。

83: レトリック感覚: ことばは新しい視点をひらく

留学体験記として(個人的に)ナンバーワンです。70年代、森と湖の美しき国フィンランドに単身留学した芸大生ミハル。辞書もないフィンランド語に奮闘し、個性溢れる仲間と極寒の冬も混浴サウナもどろろにか乗り切った、抱腹絶倒の体験記!

87: フィンランド語は猫の言葉

1960年、激動の東欧プラハで刺激的な毎日を過ごすマリ。30年後、音信の途絶えた3人の親友を捜し当てたマリが出会う驚愕の真実。作家の自伝的ノンフィクション、留学を考える人には是非読んでほしい!

92: 嘘つきアーニヤの真っ赤な真実

社会人として人生を送っていくために必要な心構えを教えてくれる。そして文章を正しく書くという基本的なことに対して理科系の作文技術は古典。

23: 幸福の「資本」論—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」

59: キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう

67: 理科系の作文技術

物事を科学的に見ることがいかに大切で、しかしできていないのがよく分かる。研究者としても実務家としても早いうちに読んでおくことが良いと思います。

2: FACTFULNESS 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

54: 事実に基づいた経営—なぜ「当たり前」ができないのか?

72: 環境危機をあおってはいけない: 地球環境のホントの実態

73: MORE from LESS(モア・フロム・レス)資本主義は脱物質化する

教養として読むべき本は沢山あるが、前者は過去の知識体系を概観するための、後者は日本人が世界で生きていくための良書。

6: 「読まなくてもいい本」の読書案内: 知の最前線を5日間で探検する

33: 驕れる白人と闘うための日本近代史